

石老山ハイキング&温泉

2012年4月28日小石川017D同窓会ハイキング

【集合場所】中央線相模湖駅

【集合時間】4月28日土8:28

【参加者】7名 蠟山、播磨、横山、小林、
松永、松木、松坂

【報告者】小林

【装 備】雨具(上下),傘,懐中電灯,防寒具,他

【食 料】昼食,飲み水,行動食・予備食(適宜)

【行 程】中央線相模湖駅(バス 8:33 発,8 分)

→石老山入口バス停(0:15) →登山口(0:20)

→顕鏡寺(0:35) →融合平見晴台(0:35)

→石老山(0:45) →中村橋バス(1:20)

→藤野やまなみ温泉<入浴・会食>

→(バス:15分) →中央線藤野駅

27日早朝蠟山から天気回復予定なので、実施するとのメールが入る。

「明日の石老山ハイキングは予定とおり実施します。既にご案内済の添付予定表のとおりです。今日は現在雨が降っていますが、誰の心がけが良いのやら、明日は好天で新緑中のハイキング日和です。」

それではハイキングの始まりです。

中央線相模湖駅集合：

小林は、高尾駅から乗換えで中央線相模湖駅に向かうが、皆さん晴れるとの思いでハイキングに出てきているようで乗換えでホームは大混雑。遅れるかと思った。

高尾からの電車が進むうちに日が射してきた。ラッキー。初夏の陽気になると確信。

中央線相模湖駅ホームに下りると、播磨が後ろから来る。ゲート近くで蠟山とも会う。出口ではすでに4名が待っていた。松永、松木、松坂の3松さんと飛び入り2回目の018の横山さん。

欠席連絡のあった脇田と再度の確認を蠟山が急いで携帯でする。



電話が済むと出発間近のバスに小走りで向かう。混雑している。15分ほどで石老山入口バス停に着く。津久井神奈中バスでスイカが使えた。小銭の心配をしないでよかった。



石老山入口バス停から登山入り口に：

コースの案内があるが、石老山からはわれわれは別ルートを取るようだ。



暑くなるので半そでに着替える。トイレも済みます。ゆっくりと舗装された道を登っていく。



新緑の初々しさと青空が良くマッチしている。

石老山登山道の案内も見つかる。



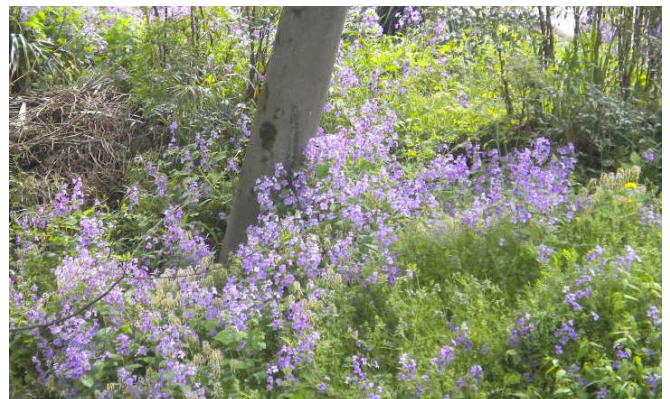
上の写真の中ほどに、なぜか一つだけ椅子が置かれているのも良い。誰が座るのだろうか。

この辺は枝垂れさくらが多い。あちこちに見える。枝垂れさくらは咲くのが少し遅いようだ。



目指す山の上には、まだ雲が覆っている。我々がつくころには晴れていることを期待。

春の花が期待できる。
ハナダイコン（花大根）＜紫花菜：ムラサキハナナ＞が群生している。きれいだ。



登山口から頭鏡寺へ：



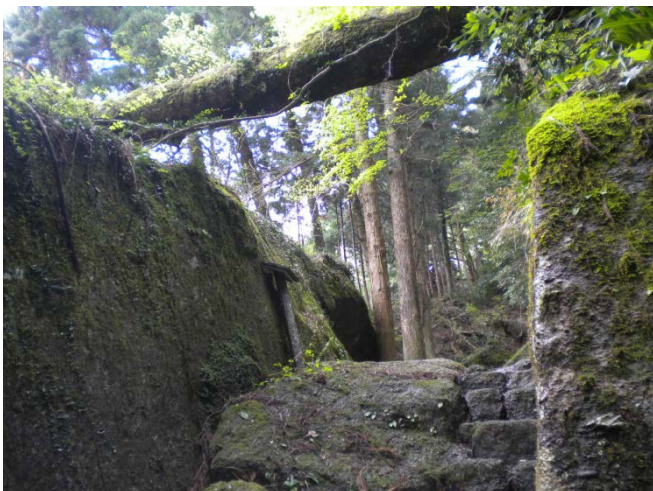
右手に曲がり山道らしきところに入って行く。蝮草(マムシグサ)があちこちに咲いていて、蝮山が解説をしてくれる。名前は、偽茎の模様が「マムシ」のように見えることから。毒がるそうだ。



頭鏡寺に向かって山道を登っていく。巨大な奇岩怪石があちこちにあり、それぞれ名前がつけられている。

石老山は、第三紀地層の礫岩が全山に分布するため石があちこちにあるようだ。久しぶりに汗をかく。気持ちよい。

屏風岩



仁王岩 (阿吽岩)



著莪の花がいっぱい咲いていた。<妻に聞き、インターネットで調べると著莪(射干) (しゃが)とあった。正解のようだ。>



一丁ごとに石のしるしが置かれている。



駒立石



力試石



顕鏡寺：

ここで少し休憩をする。顕鏡寺は、平安時代の仁寿元年(851年)に源海法師によって創建された。境内には樹齢数百年の巨木が並び荘厳な雰囲気醸し出している。

奇岩の中を登ってきたが、ここには車で来ることができる。駐車場もありました。飲み物の自動販売機もありました。

お寺の前には巨木に杉があり、その根っこが大蛇のように見えることから、蛇木杉と名づけられている。



岩窟 道志法師や源海法師が、ここを住居としたそうだ。



山門



落ち着いた雰囲気のある場所だ。



さくら道ハイキングコース：

山登り再開。道が二手に分かれる。さくら道というほうを選び、進んでいく。



道にはさくらの花びらが敷かれている。



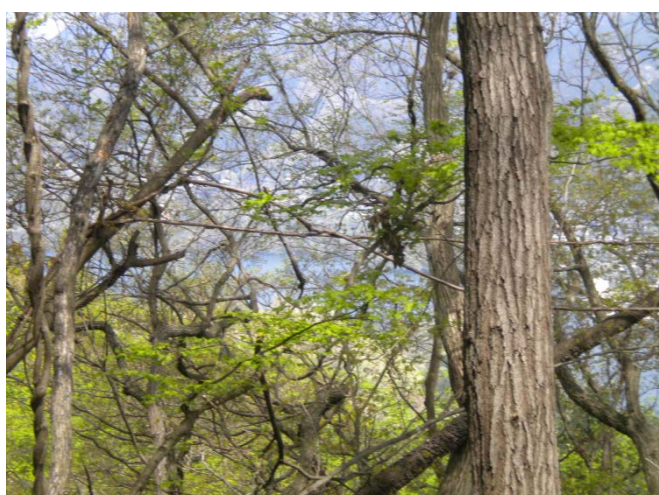
見上げるとどこかにさくらの木が見つかる。しかし、花びらは山道に落ちてしまっている。



このさくら道からの見晴らしは良い。

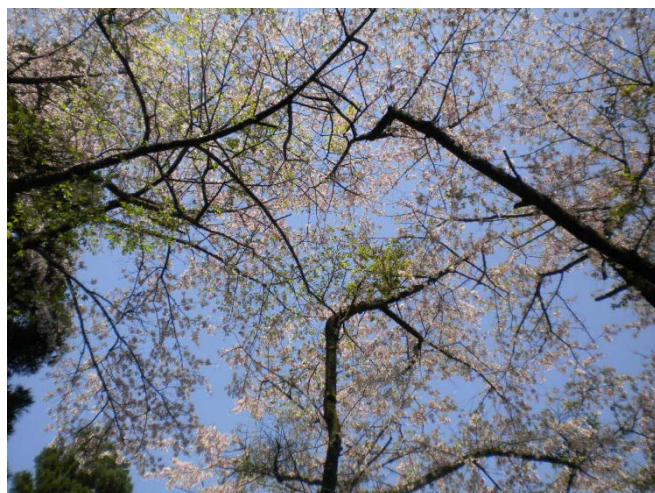
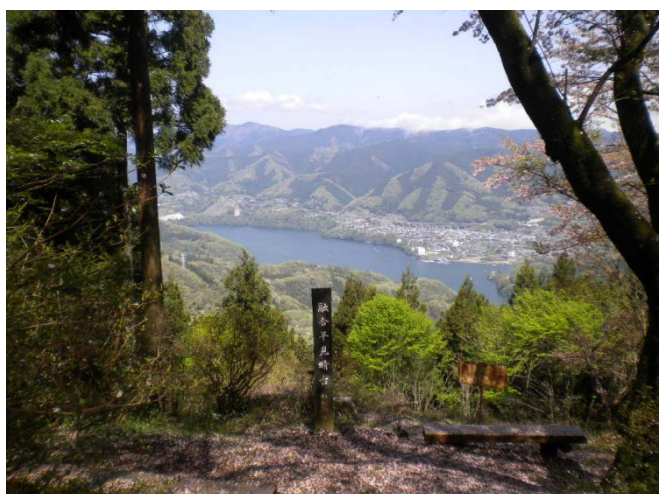


木々の間に相模湖がちらちらと見えてくる。



融合平見晴台：

少し進むと融合平見晴台に着く。



すばらしい、相模湖をバックにさくら吹雪だ。しばらく絶景を楽しむ。残念ながら、写真では細やかなさくらの花びらを写すことができていない。花びらを想像してください。



花吹雪の落下が少し早い。ヒラヒラというよりのスーという感じで落ちてくる。検討結果は、昨日までの雨で花びらが濡れて重くなっているので、ヒラヒラと舞うことができないようだ。サーと落ちてくる無数のさくらの細雨が、日に当たりキラキラと輝いている。相模湖も新緑の中に青い湖面を輝かしている。

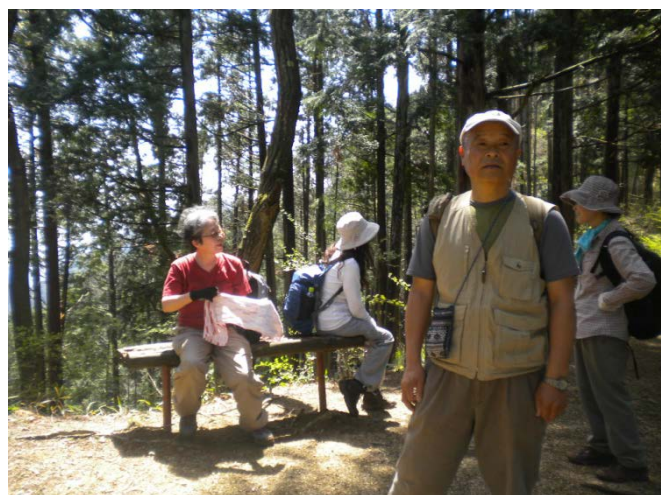


連休で中央道の下りの交通量が多く、車がゆっくりと進んでいるのも相模湖の先に遠く見える。

誰かが、花吹雪を見て花びらも体力がなくなりしがみついていることができなくなって落ちてしまうのだななどと言い、笑いをもらおう。

限界だ先に行きます手を離し落ち行く我を風もてあそぶ

さらに登っていく。もう少しだ。



ここは山頂ではない。単なる休憩場所。

石老山山頂：

さらに登るがなかなか山頂が見えない。精神衛生上悪い。やっと山頂到着。おめでとう。石老山は、標高 694.3 メートルの山。相模湖の名山としても知られ、関東百名山の一つに選定されている。ここから丹沢や富士山、南アルプスが見える。



(中央右の雲に隠れているのが富士山)
しかし、雲が富士山を隠している。雲が少し移動したとき、真白な雪頂を持つ富士山をちょっと見ることができた。記念写真も撮る。



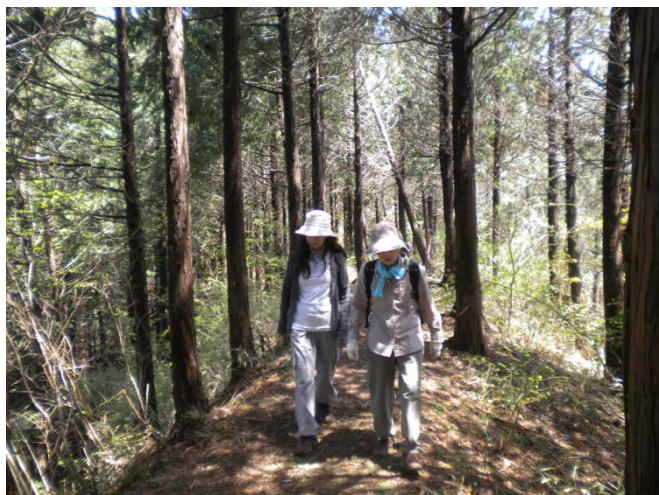
昼食を取る。松永持参の白ワインは、まだ登山途中ということで、飲むのは松永と小林だけ。下山後の温泉でのビールをみな楽しみにしている。30分ほど休憩する。



これからは篠原という地名を目当てに下っていく。

篠原、中村橋バス停に向けて：

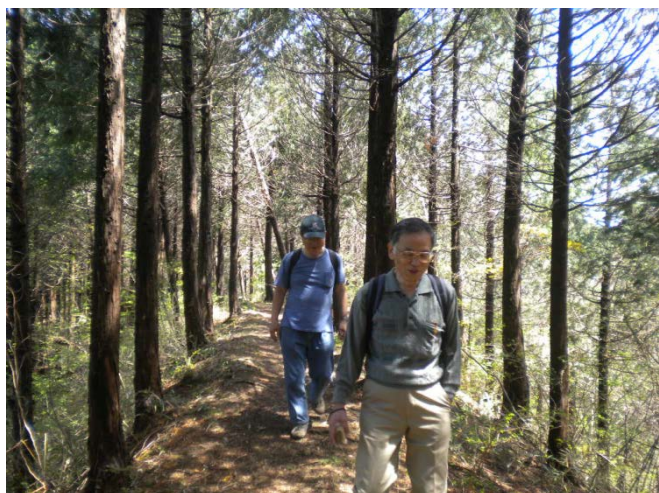
ここからは下りがほとんどだと言われたが、時たま登りがある。



途中何度か休憩。間伐をしないから木が育たないとブツブツ・・・



下りもかなりの急で、昨日の雨でまだぬかるみ、滑りやすいので注意して下っていく。下りが厳しいので、膝ががくがくとしてくる。



下ってきているのかマムシ草をまた見ることができるようになった。少し蓋いをいじって中を良く見えるようにして記念写真。恥ずかしいかも。当然写真を撮った後は元に戻した。



やっと人家が見えてきた。

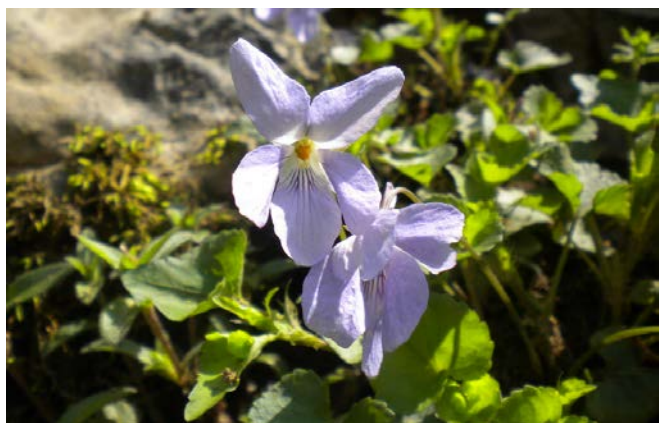


ここで後続の3人がやって来るのをしばらく待つ。ここからも石老山に登れる表示。



川が流れ、民家のさくら、雪柳、菜の花、若い竹、新緑の山、小さな花々をしばらく写真に撮る。





水飲み用の竹筒が三つ、溜め井戸の上に置かれている。飲めるかもしれないが遠慮する。



和毛 (にこげ) という言葉をはじめて教わる。和毛はふさふさとした産毛の意味なので、まだ産毛のようなものに覆われて葉などが柔らかな緑をしているさまのようだ。



分かるだろ緑色にも細やかな色調あり春の里山



ふさふさの和毛の若葉春の山うなじのうぶ毛セクシーですね



トカゲも日光浴に出て来ている。皆で見て話題にしているが知らん顔。



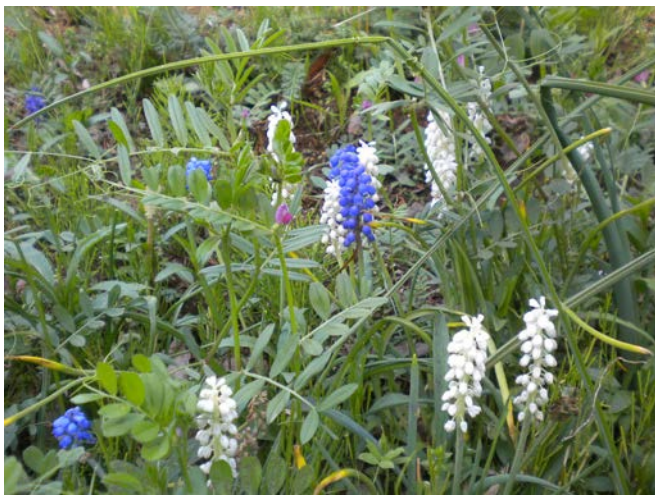
後続の人たちが最後の階段を降りてくる。



後続の人たちが休憩を取ったあと、舗装されて細い道を進む。この辺には枝垂れさくら、八重さくら、ムスカリや名も知らぬ花がきれいに咲いている。



新緑に映え楽しませてくれる。



播磨は蝶々集めが好きで、仲間といろいろなところに行っているという。それを覚えていたのか、山吹の花が緑の枝についているのを見て、一匹の蝶が止まっているように見えた。



里山のみどりの枝にゆったりと黄色い羽根の蝶が休む

途中、相模湖カントリークラブというゴルフ場の入り口があり、そこで野菜の販売をしているおじさんがいた。ゴルフ帰りの人をターゲットにしている。横山さんが蒨を購入。蒨 200 円、ほうれん草 100 円、タケノコ 700 円と 1000 円の 3 品だけ。



温泉まであとどのくらいかと聞くと 15 分くらいだという。サーもう少しだ、横山さん、がんばろう。

これが最後の新緑の山の景色。



藤野やまなみ温泉<入浴・会食>:

まだ明るいうちに温泉に着く。一人 3 時間 600 円のコースを購入。お風呂に入る。原泉を温めている。野天プロもあり、がくがくの足をゆっくりと伸ばす。

うううーん体を伸ばしゆったりと友と並んで心身洗う

生ビール 7 つ、おでん 7 つ、おつまみ A,B,C (焼きイカ、たこわさび、柔らかいイカのわさび味) を 2 つずつ、ポテト 2 つを頼む。



テーブルに座り、飲み物とおつまみが出てくるのを待つ。帰りは 5 時 39 分なので、1 時間半ほどゆっくりとできる。



生ビールを飲み終わると、自動販売機から缶ビールをどんどん買ってくる。



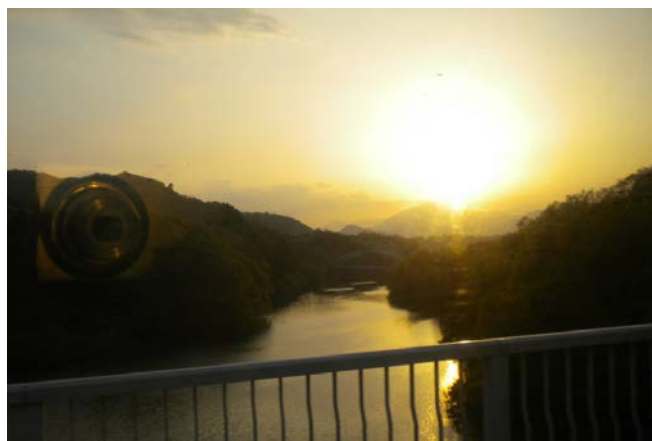
会話も弾む。時間が持つかと思っただ、足りないくらいでした。

温泉前のバス停から中央線藤野駅へ：

5：39分のバスなので、20分頃に温泉をあとにする。まだ明るい。さすがここはバスがこの時間帯で1時間に2本走っている。



ここが始発のようで皆座れた。途中津久井湖畔を走っていると、日が沈み始めてきた。



15分ほどで中央線藤野駅着。高雄行きの列車が遅れている。

皆さん帰路へ：

高雄で皆それぞれの方面に帰る。

皆さん、脇田さん、苦しい登り降り後の幸福（ビール）を是非、また味わいましょう！

以上

コース全体図：

